

令和7年  
2025年

1月8日  
水曜日

第11628号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料(前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



中央畜産会が新年賀詞交歓会を開催……P5

CONTENTS

- ▶【今年の牛価を占う】年末は堅調相場、年明けは高値維持…………… P 2～3
- ▶12月豪州産対日輸出量、合計2万1203tで4.4%減…………… P 4
- ▶中央畜産会が新年賀詞交歓会を開催「関係者一丸で畜産振興に取り組む」と森山会長があいさつ…P5
- ▶[加工品仕向肉量・11月]国産、輸入の合計数量は3万8916tで4.9%増……………P6
- ▶年末年始の発生を受け、鳥インフルエンザ防疫対策本部を実施—農水省…………… P 6～7
- ▶[ソーセージ輸入11月]計2325tで14.8%増…P7
- ▶1～11月の農林水産物・食品の輸出額、牛肉は5.7%増—農水省…………… P 7
- ▶欧州委員会の食肉中期需給見通し、牛肉と豚肉は減産、家禽肉は増産…………… P 8
- ▶[資料]2024年11月分の食肉輸入通関実績⑮…P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]7日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]7日…P11

## 注目のヘッドライン

【今年の牛価を占う】年末は堅調相場、  
年明けは高値維持

…詳細はP2～3

中央畜産会が新年賀詞交歓会を開催「関  
係者一丸で畜産振興に取り組む」と森山  
会長があいさつ

…詳細はP5

食の感動体験を創造することで  
世界中の人々と食をつなぎ続ける



<https://www.starzen.co.jp/>



<https://www.sfoods.co.jp/>

## 【今年の牛価を占う】年末は堅調相場、年明けは高値維持

一昨年(2023年)の5月8日に、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行した。この日以降がアフターコロナとして位置付けられたとっていいだろう。

そのアフターコロナ下である昨年、一昨年の食肉産業の動向は共に非常に厳しいものがあった。

諸物価の高騰に伴う節約志向の高まりが主な原因として考えられており、特に高級部位である和牛ロースの販売に苦戦した2年間となった。

この2年の中で顕著となった傾向は、どちらも年末に際しては和牛販売が好調に転じたこと。節約志向の中でも、年末やハレの日などの需要は強く、和牛販売の底支えとなっている。

しかし、一昨年場合は、それまで低調だった荷動きが11月にいきなり活発化し、東京市場の和牛A5等級の月間加重平均価格のうち、12月相場だけが2736円と、前年の22年の価格を48円上回った。

景気の良い話ではあったが、末端の販売はそこまでついてこなかったため、年明けまで在庫を抱える企業も散見された。このため、年末に高値で仕入れた牛肉の価格をソフトランディング(軟着陸)させたいという思惑もみられたことで、昨年1月相場も高値となり、2595円と、前年同月を42円上回った。

しかし、2月以降、荷動きが改善しなかったことから、その後の価格は低迷し、従来であれば高値に転じる3月価格も2月価格を48円下回る2530円となり、また特に大型連休前ということから上半期で最も高値になる4月さえも、3月価格を36円下回る2494円となった。

4月価格が3月価格を下回ったのは20年以来。20年は4月に新型コロナに関連して初めての緊急事態宣言が発出されたもの。昨年のように3月相場を下回るのは異例といえる。景況感の悪さや、在庫調整の動きが目に見えて表れた。

その後、5~6月と消費が落ち込む時期であるため、そのまま相場は下降。中元需要や旧盆商戦で引き合いが強まる7月も2353円と、前月から

27円安となり、下降傾向が続いた。8月は2302円と、なんとか2300円台を保った。2300円を割ったのは、やはりコロナが始まった20年で、それに近い水準まで下落したことになる。

そこから9月に入ると2405円となり、前月からは103円高と、一気に100円上昇した。昨年は1月の価格をピークに8月まで一度も前月価格を上回ることがなかったが、9月になって初めて前月を上回った。

また、10月は2471円で、引き続き前月を上回るとともに、相場の回復基調が鮮明となった。年末を前に値動きが安定してきたのは一昨年と同様の傾向で、今年においても同様の傾向が予測される。

昨年の和牛枝肉相場は、一昨年に続いて厳しさが鮮明になった年だった。

アフターコロナとなり、外食産業に人が戻り始めているものの、1回転目は集客できても21時以降の集客が以前のように入らなくなっており、売り上げが減少傾向にある。また、歓送迎会や忘年会などの法人利用が以前に比べて減少、あるいは小規模化していることで、大幅な売り上げが立ちづらくなっている。

こうした影響を受けて、帝国データバンクによると、昨年の焼き肉店の倒産件数は過去最高水準のペースだった。居酒屋業態の倒産も同様に過去最高水準だった。

輸入ビーフ・内臓価格がコロナ以降、高値となっていることや、それ以外の諸物価の高騰、土地価格の上昇に伴う家賃の値上げなども影響している。コロナ時の金融支援により「ゾンビ企業」ともいわれる赤字企業が延命されたものの、現況に耐え切れずに倒産が相次いでいる。

また、インバウンド需要の回復に期待が寄せられる。

日本政府観光局(JNTO)によると、昨年の訪日客数は過去最高水準で、1~10月の累計が3019万人となり、3千万人を突破した過去最速のペースとなっている。

これには、伸び悩んでいた中国人観光客がよう

やく回復に向かっていること、欧米や東南アジアからの来日も引き続き順調となっていることが要因。

しかし、団体旅行は引き続き少なく、円安に伴う日本の“安うま、に注目が集まる中では、なかなか和牛ロースステーキといった高級品の消費につながっていない。

業界内の問題では、和牛ロース販売の苦戦も業界不振の大きな要因だ。若者を中心に赤身志向が強まる中で、生産側の技術研さんによりBMSが近年、非常に高まっている。こうした生産と販売のミスマッチや、景況感の悪化の中での税金の国民負担率の高まりなどが報道されており、高単価のロースが売りづらくなっている。

また、コロナ禍では行政による「和牛肉保管在庫支援緊急対策事業」が3年間実施されたが、それがなくなった反動もある。

牛肉輸出に目を向ければ、昨年は前年を1割程度上回る数量が輸出された。一昨年、牛肉の不正輸出の摘発が相次いだことで、一時は不正輸出ルートを中心となっていたと思われるカンボジア向け輸出が大きく減少するなど、輸出量の伸び悩みが懸念されたが、最終的には前年比(22年比)13・0%増と、大幅に増加した。

昨年はそれをさらに上回る結果となり、輸出の好調ぶりがうかがえる。一昨年の不正輸出の摘発に続き、昨年も兵庫県の事業者が「神戸ビーフ」を不正輸出する事件が発覚。これらの摘発により、輸出ルートの正規化が進んでいる。

これに伴い、特に大手食肉事業者を中心に輸出実績が拡大。国内販売では厳しいといわれているロースが主力となり、ロースの余剰在庫の活用のほか、むしろロースの手当てが先行するといった変化もみられている。

日本法人同士の過当競争も減少するなど、今年以降も順調に推移する見通しだが、海外に販売ルートを持つ事業者とそうでない事業者で売る力に差異が生じる懸念や、海外消費に頼ってしまうことなど、心配な面は否めない。

今年1年の和牛の価格予想として、和牛のと畜頭数は、54万3700頭で0・7%増と、やや増加すると予測する。近年、和牛生産量の増加の中で相場も軟調で推移してきた経緯からみると、今年

についても相場は前年よりはやや下落すると予測する。

1月相場だが、近年は年末の相場を引きずり、1月相場が比較的高い。このため1月は一定の価格を維持するとみて2500円と設定。2月は例年、引き合いが低下することから2450円と下げる。

3月は引き合いが再び強まる時期だが、近年はそこまで強まらず、2月相場よりも下げることがある。このためコロナ後の引き合いを勘案すると2月と同水準とみる。

4月は大型連休前で相場が持ち上がるタイミング。しかし4月についても、近年は大幅に上げることが少なくなっており、限定的になるとみて2500円とした。

5～6月は低迷時期なので、価格は伸び悩むと予測。従来であれば7月は高値になるが、こちらも近年の傾向や猛暑の影響から大幅な高値が見込めないため、5～6月と同水準にとどまるとみた。8月は近年、大きく下げるため、2300円とした。

9月からは秋冬シーズン向けの仕入れがスタートし、相場も上昇する。消費者の節約傾向から大幅には伸長しないとみえるが、2400円とした。10月は9月からやや上昇。11月、12月は、近年の年末需要の急速な高まりを踏まえて、高値に設定している。

東京市場和牛A5等級(去勢) 月間加重平均価格予想(キロあたり円)	
	平均単価
1月	2500円
2月	2450円
3月	2450円
4月	2500円
5月	2400円
6月	2400円
7月	2400円
8月	2300円
9月	2400円
10月	2450円
11月	2600円
12月	2650円

## 12月豪州産対日輸出量、合計2万1203tで4・4%減

豪州農水林業省が公表した12月の豪州の食肉輸出量によると、食肉の総計は20万9074t(前年同月比17・6%増)と増加した。

畜種別にみると、牛肉は12万7393t(19・4%増)、マトンは2万5778t(23・9%増)、山羊は4550t(52・7%増)、内臓類は2万453t(29・9%増)と増えたが、ラムは2万8262t(2・3%減)、豚肉は2638t(0・7%減)と減少した。

対日輸出量(船積数量)は2万1203t(4・4%減)で、このうち牛肉は1万8082t(4・9%減)、マトンは313t(24・9%減)、ラムは700t(14・3%減)と前年を下回ったが、内臓類は2007t(6・2%増)と増加した。

牛肉の輸出数量を州別にみると、クイーンズランド州は6万1579t(19・0%増)、ビクトリア州は2万9521t(29・

5%増)、ニューサウスウェールズ州は2万3046t(17・0%増)。このうち日本向けは、クイーンズランド州が1万511t(5・5%減)、ビクトリア州は4086t(6・7%増)、ニューサウスウェールズ州は2037t(17・3%減)となった。

豪州の対日輸出数量(2024年12月)

(単位:トン、船積重量)

	日本向け計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	18,082	2,037	4,086	10,511	547	222	679
(前年同月比)	95.1	82.7	106.7	94.5	139.5	63.4	79.2
マトン	313	142	121	0	0	51	0
(前年同月比)	75.1	177.5	91.0	-	-	27.3	-
ラム	700	243	275	0	149	33	1
(前年同月比)	85.7	85.0	67.4	-	244.3	117.9	-
豚肉	0	0	0	0	0	0	0
(前年同月比)	-	-	-	-	-	-	-
内臓類	2,007	422	516	858	71	94	45
(前年同月比)	106.2	137.9	119.4	102.8	94.7	57.7	57.7
その他・計	21,203	2,852	5,045	11,414	767	400	724
(前年同月比)	95.6	91.0	104.3	95.4	140.5	54.9	75.6

豪州の食肉輸出数量(2024年12月)

(単位:トン、船積重量)

	豪州総計	NSW	VIC	QLD	南豪州	西豪州	TAS
牛肉	127,393	23,046	29,521	61,579	5,587	3,350	4,306
(前年同月比)	119.4	117.0	129.5	119.0	157.0	81.3	89.8
マトン	25,778	9,606	9,326	0	1,934	4,464	448
(前年同月比)	123.9	116.8	135.4	-	168.8	111.4	95.3
ラム	28,262	7,075	13,305	0	4,039	3,332	511
(前年同月比)	97.7	97.4	99.1	-	104.1	95.2	155.8
豚肉	2,638	565	459	170	371	1,072	0
(前年同月比)	99.3	75.4	176.5	61.4	101.4	106.8	-
内臓類	20,453	4,173	5,647	7,913	1,148	1,057	508
(前年同月比)	129.9	121.1	143.2	129.9	137.5	108.0	113.6
その他・計	209,074	45,663	60,422	70,673	13,128	13,403	5,772
(前年同月比)	117.6	113.4	124.2	118.9	134.1	98.3	95.6

2024年12月の船積み数量(12月31日時点)

(単位:トン)

主な輸出先国	牛肉	うちチルド	マトン	ラム	山羊	豚肉	内臓類	合計
日本	18,082	6,030	313	700	100	0	2,007	21,203
(前年同月比)	95.1	77.9	75.1	85.7	270.3	-	106.2	95.6
韓国	18,496	3,004	166	1,309	615	44	3,249	23,880
(前年同月比)	119.7	121.8	197.6	117.1	229.5	-	157.4	125.7
台湾	3,243	776	402	182	255	0	338	4,420
(前年同月比)	163.3	138.8	117.5	84.3	128.8	-	175.1	150.5
米国・東部	28,983	6,809	699	4,814	1,860	0	1,281	37,636
(前年同月比)	107.4	88.6	35.6	99.6	122.4	-	126.2	103.6
米国・西部	13,121	3,294	50	1,922	182	0	223	15,498
(前年同月比)	149.4	319.5	11.7	149.8	138.9	-	119.3	143.3
E U	820	796	712	2,486	23	0	102	4,142
(前年同月比)	123.1	127.6	141.3	115.9	-	-	141.7	122.3
その他・計	127,393	29,424	25,778	28,262	4,550	2,638	20,453	209,074
(前年同月比)	119.4	107.2	123.9	97.7	152.7	99.3	129.9	117.6

資料: 豪州農水林業省

## 中央畜産会が新年賀詞交歓会を開催 「関係者一丸で畜産振興に取り組む」と森山会長があいさつ

公益社中央畜産会(森山裕会長=写真)は7日、東京都文京区の東京ガーデンパレスで令和7年新年賀詞交歓会を開催した。会員、行政、関係団体などから300人以上が参加した。

森山会長は「昨年は元日に能登半島地震が発生し、多くの人々が被災された。本会でも石川県の畜産農家の経営再建を支援するため、会員・賛助会員をはじめ関係者に呼びかけて支援金の募集を行い、昨年末に石川県畜産協会を通じてお届けした。多くの方々にご協力いただいたことに心よりお礼を申し上げます。

また、昨年5月には食料・農業・農村基本法が制定から四半世紀を経て初めて改正された。この改正では基本理念に食料安全保障の確保を掲げるとともに、農業生産基盤の確保に向けて、国内への食料供給に加え、海外への輸出を図ることが明記された。これは農政の大きな転換点であり、国も基本法改正後の初動の5年間を『農業構造転換集中対策期間』と位置付け、計画的・集中的に施策を講じるとしている。また、自民党としても総裁直轄機関である『食料安全保障強化本部』を設置し、生産現場などが意欲とやる気を持って取り組めるよう施策を具体化し、食料安全保障の強化を着実に進めていくための十分な予算の増額と、次期『食料・農業・農村基本計画』についての検討と結果の取りまとめを行う。私もその先頭に立って尽力する所存だ。畜産を取り巻く状況は、輸入飼料や資材価格の高止まり、人件費の高騰などにより畜産物の生産コストが上昇する一方、消費行動の変化により、牛肉価格が低迷するなど厳しい環境下にある。これまでも畜産業は変転する事態への対応が迫られるたびに、その試練を乗り越えて生産基盤を守ってきた。今後も耕畜連携の推進、国産飼料の生産拡大、IT・ロボット技術を活用した省力化、地球環境を守った生産に取り組むことが重要だ。本会としても、わが国の畜産物の大宗を生産する家族経営を基本に、畜産経営の健全な発展に向け、経営指導、畜産クラスター事業、畜産ICT事業など各種事業を着実に推進していく。

家畜衛生に目を転じると、今シーズンは例年より早



い10月から高病原性鳥インフルエンザが発生している。豚熱も年間を通じて散発している。また、韓国や中国などではアフリカ豚熱や口蹄疫の発生もあり、その侵入を許せば国内畜産業は大きな打撃を受けることになる。引き続き水際対策の強化と生産農場における飼養衛生基準の順守・徹底に取り組んでいく。加えて安全な畜産物を消費者に届ける観点からも、農水省が作成した農場HACCP認証への取り組みの重要性も増している。農場HACCP認証制度の推進により、衛生管理の徹底、生産技術や飼養管理者の資質の向上などを図り、育成率や飼料要求率の改善、ひいては優れた畜産経営の育成につなげてゆく。

今年の干支である『巳』は脱皮するヘビの習性から、変化や成長の象徴とされる。改正された基本法や酪肉近代化計画など農政も新たなステージのスタート地点に立っている。本会も農水省の指導の下、関係者一体となって畜産の振興に取り組む所存だ」とあいさつした。

来賓からは農水省の渡邊毅事務次官が「能登半島の復興も道半ばではあるが、国を挙げて支援を行っていく。中央畜産会が呼びかけた支援金について、まずはお礼を申し上げます。また、昨年は酪農・肉用牛については厳しい消費環境となったが、需要拡大に向け必要な施策を講じていく」とあいさつで述べた。農畜産業振興機構の天羽隆理事長が乾杯の音頭を取り、懇親を行った。会の後半では、生産者代表として、日本酪農政治連盟の柴田輝男委員長、全国肉牛事業協同組合の佐々木信弘理事長、日本養豚協会の香川雅彦会長、日本食鳥協会の佐伯裕志副会長、日本養鶏協会の彦坂誠副会長が登壇し、それぞれの立場で新年のあいさつを行った。

## [加工品仕向肉量・11月] 国産、輸入の合計数量は3万8916 tで4・9%増

日本ハム・ソーセージ工業協同組合がまとめた11月の加工品仕向肉量によると、国産と輸入を合わせた合計数量は3万8916 t

(前年同月比4・9%増)と前年同月を上回った。このうち国内物が1万827 t(3・6%増)と増加し、輸入物も2万8089 t(5・4%増)と増加している。24年度累計は38万4657 t(2・9%増)。このうち国内物は10万4784 t(4・3%増)、輸入物は27万9873 t(2・3%増)で推移している。

畜種別にみると、豚肉は国内物が6723 t(0・3%増)、輸入物が2万5886 t(7・2%増)、合計3万2610 t(5・7%増)で前年を上回った。また、鶏肉は国内物が3933 t(9・7%増)と増加し、輸入物は907 t(23・4%減)となり、合計では4840 t(1・5%増)と前年を上回った。成牛肉は1429 t(0・5%減)で、国内物が165 t(5・6%増)、輸入物が1264 t(1・2%減)となった。

シーズンドポークなどを

含む豚肉調製品は9901 t(4・1%減)となっている。

2024年11月分の食肉加工品仕向肉量

(単位:トン、%)

区分		仕向肉量	対前年同月比	2024年累計	対前年同期比
豚肉	国内物	6,723.2	100.3	62,438.4	104.0
	輸入物	25,886.3	107.2	257,751.0	103.7
	合計	32,609.5	105.7	320,189.4	103.7
成牛肉	国内物	165.4	105.6	1,394.5	106.0
	輸入物	1,263.5	98.8	11,800.6	94.8
	合計	1,428.9	99.5	13,195.1	95.9
子牛肉	国内物	0.0	0.0	0.2	0.0
	輸入物	1.0	90.9	8.9	98.9
	合計	1.0	90.9	9.1	101.1
馬肉	国内物	5.0	96.2	37.9	38.5
	輸入物	8.6	93.5	63.2	63.9
	合計	13.6	94.4	101.1	51.2
縴羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	22.7	102.7	243.5	111.0
	合計	22.7	102.7	243.5	110.9
山羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	3.2	94.1
	合計	0.0	0.0	3.2	94.1
鶏肉	国内物	3,933.1	109.7	40,913.3	104.9
	輸入物	907.3	76.6	10,002.7	82.7
	合計	4,840.4	101.5	50,916.0	99.6
合計	国内物	10,826.7	103.6	104,784.3	104.3
	輸入物	28,089.4	105.4	279,873.1	102.3
	合計	38,916.1	104.9	384,657.4	102.9
うさぎ肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0
魚肉	国内物	1.5	83.3	16.2	94.7
	輸入物	17.3	102.4	139.0	97.5
	合計	18.8	100.5	155.2	97.2
【参考】					
豚肉調製品		9,901.3	95.9	102,585.5	95.0
うちシーズンドポーク		9,894.6	95.9	102,496.9	95.0

注) 1. 仕向肉量は食肉加工工場より報告された数量である。

資料: 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」

(公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

## 年末年始の発生を受け、鳥インフルエンザ防疫対策本部を実施一農水省

鹿児島県霧島市の家禽農場で7日、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認され、同農場で飼養されている肉養鶏約12万羽が殺処分となる。

農水省では同日、年末年始の発生状況を踏まえ、発生予防とまん延防止の対策徹底を図るため、鳥インフルエンザ防疫対策本部を開催。また、江藤拓農

水大臣は閣議後会見において、「昨年のうちは比較的抑え込むことができた。一方で、まだ新年が明けて間もないが、5件の発生が確認されている。改めて緊張感を持ってもらいたい。最小のまん延被害で乗り切るためにも、省を挙げて努力していきたい」と話した。

また、高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえた農場の分割管理については、「1農場で発生した場

合、全て殺処分をするというのが、これまでの家畜伝染予防法上の定義であったが、埋却や焼却の手間もあり、経営に与える影響も大きいので、分別していただきたいと思っている。国として進めるのであれば、支援の内容も充実したものにしていく必要があり、検討の課題の一つである」と述べた。

## 【ソーセージ輸入 11月】計 2325 t で 14・8%増

11月のソーセージ輸入通関実績は計2325t(前年同月比14・8%増)で増加となり、前月比では59t減となった。国別ではブラジルが663t(135・9%増)、米国が570t(13・1%増)、中国が491t(30・

2%増)と前年を上回ったが、タイは400t(28・3%減)、デンマークは101t(30・3%減)で減少となった。

ソーセージ輸入量の推移

単位：トン、カッコ内前年比%

	中国	タイ	米国	ブラジル	デンマーク	合計
2021年計	6,116(93.7)	6,610(102.0)	7,156(92.1)	3,679(73.3)	1,178(90.3)	26,790(90.8)
2022年計	5,610(91.7)	7,066(106.9)	6,321(88.3)	6,422(174.6)	1,347(114.3)	28,444(106.2)
2023年計	5,104(91.0)	6,721(95.1)	6,470(102.4)	4,544(70.8)	1,230(91.3)	25,580(89.9)
2023年11月	377(98.2)	558(92.4)	504(87.5)	281(40.5)	145(109.8)	2,025(78.8)
12月	490(82.4)	648(113.7)	647(146.0)	311(46.8)	87(87.9)	2,291(90.7)
2024年1月	339(93.4)	448(89.1)	342(65.1)	301(81.4)	21(16.8)	1,551(77.4)
2月	356(106.3)	555(95.5)	423(105.5)	325(96.2)	59(-)	1,786(100.3)
3月	349(100.3)	506(79.9)	517(142.8)	407(132.1)	76(140.7)	1,986(109.7)
4月	414(80.4)	516(102.6)	776(150.4)	517(129.3)	155(72.1)	2,539(110.5)
5月	464(132.2)	502(132.8)	647(143.8)	349(94.3)	134(108.1)	2,192(125.2)
6月	401(96.9)	490(76.8)	632(102.9)	516(113.9)	72(64.9)	2,232(93.0)
7月	439(108.7)	577(91.0)	619(106.4)	432(84.9)	160(118.5)	2,404(101.2)
8月	474(92.8)	451(89.5)	493(60.8)	629(147.7)	133(102.3)	2,351(92.4)
9月	468(100.9)	499(88.0)	450(88.8)	516(145.4)	83(180.4)	2,104(101.7)
10月	400(75.2)	634(110.5)	490(88.9)	692(163.6)	37(63.8)	2,384(106.8)
11月	491(130.2)	400(71.7)	570(113.1)	663(235.9)	101(69.7)	2,325(114.8)

## 1～11月の農林水産物・食品の輸出額、牛肉は5・7%増一農水省

農水省はこのほど、2024年1～11月の農林水産物・食品の輸出額を公表した。1～11月の累計輸出額は1兆3014億円(前年同期比1・9%増)となった。

品目別にみると、牛肉が545億7500万円(5・7%増)、豚肉が20億6800万円(14・7%減)、鶏肉が

22億5300万円(3・1%減)となっており、牛肉については台湾向けが堅調に推移している。

一方、11月単月の輸出額をみると、牛肉が58億7600万円(前年同月比1・5%増)、豚肉が2億300万円(14・4%増)、鶏肉が2億2800万円(1・9%増)と、全ての畜種で前年を上回った。

## 欧州委員会の食肉中期需給見通し、牛肉と豚肉は減産、家禽肉は増産

欧州委員会は2024年12月11日、35年までのEUの農畜産物中期的需給見通しを公表した。このうち、食肉に関しては、牛肉および豚肉は持続可能性への懸念などが影響し、生産量、消費量ともに減少する一方、家禽肉は価格面などを要因とした堅調な需要を背景に、生産量、消費量ともに増加する予測となった。品目別の概要は以下のとおりであり、数値はすべて枝肉重量ベースである。

牛肉生産量は減産傾向で推移し、2035年には22～24年平均の673万tから6・7%減の628万tと予測される。これは、収益性の低下と環境規制の厳格化の影響による牛飼養頭数の減少が要因である。

牛肉消費量は、他の食肉と比較して高価であることや持続可能性への懸念を背景に減少傾向が継続し、35年には22～24年平均の632万tから6・7%減の589万tと予測される。

牛肉輸出量は、輸出先での需要拡大やアニマルウェルフェアを背景に生体輸出が牛肉輸出に置き換わることなどにより、35年には22～24年平均の54万tから10・4%増の60万tと予測される。主な輸出先は、近隣諸国である英国、トルコ、東欧、中東、北アフリカとみられる。

35年の牛枝肉価格は、減産による牛肉の供給減や生産コストの増加により、22～24年平均のキロ当たり4・99ユーロから21・8%高の6・07ユーロと予測される。

豚肉生産量は、環境規制やアニマルウェルフェアに関する基準の厳格化に加え、輸出機会の減少により減産傾向で推移し、35年には22～24年平均の2132万tから5・6%減となる2013万tと予測される。

豚肉消費量は、環境問題やアニマルウェルフェアへの関心の高まりに加え、脂肪分を避ける一部の消費者の嗜好が影響し、35年には22～24年平均の1808万tから4・9%減の1720万tと予測される。

豚肉輸出量は、輸出先である中国、フィリピン、ベトナムなどで国内生産量の増加が見込まれ、輸入需要が減少することから、35年には22～24年平均の331万tから10・2%減の297万tと予測される。最大の輸出先は英国と見込まれるが、同国の需要も減少傾

向であるため、輸出先の多様化が課題となる。

35年の豚枝肉価格は、減産による豚肉供給減や生産コストの増加により、22～24年平均のキロ当たり2・09ユーロから5・9%高の同2・21ユーロと予測される。

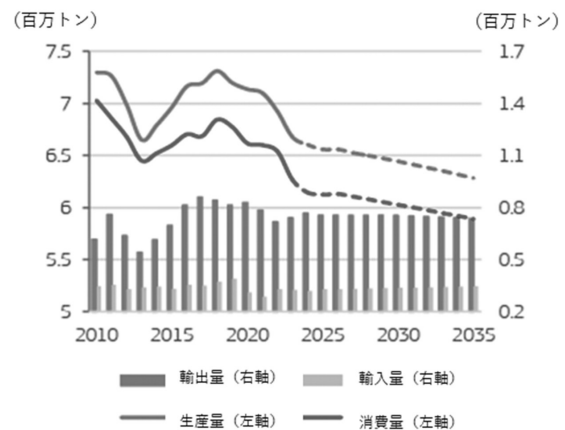
家禽肉生産量は、堅調な域内需要と輸出機会の増加を背景に増産傾向で推移し、35年には22～24年平均の1346万tから5・7%増となる1423万tと予測される。ただし、環境規制の厳格化やアニマルウェルフェアに配慮した飼養方法への切り替えを考慮すると、生産拡大の余地は一部の加盟国に限定されるため、直近10年間の増産ペースを下回ると予測される。また、高病原性鳥インフルエンザの発生時期の長期化も生産動向に影響する可能性がある。

家禽肉消費量は、他の食肉より比較的low価格で健康的なイメージがあることや調理利便性の高さから堅調に推移し、35年には22～24年平均の1241万tから5・5%増の1310万tと予測される。

家禽肉輸出量は、英国、サハラ以南のアフリカ諸国、アジア諸国からの需要増により、35年には22～24年平均の188万tから9・1%増の205万tと予測される。

35年の家禽肉価格は、堅調な需要により、22～24年平均のキロ当たり2・63ユーロから3・9%高の同2・74ユーロと予測される。(農畜産業振興機構)

牛肉需給の予測



資料：欧州委員会

注1：数値は枝肉重量ベース

注2：輸出量には生体輸出を含む

[資料] 2024年11月の食肉輸入通関実績⑮

00013626z1/2024年11月(2024/November) (輸入「速報値」、IMPORT「Provisional Data」)  
貿易統計(JAPAN TRADE STATISTICS)

品別国別 (COMMODITY BY COUNTRY)

(単位:1,000円、UNIT:¥1,000)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE

NEWZELD	606 KG	-	-	24010	79305
TOTAL	990 KG	19464	8541	748986	1041827
(E. U)	991 KG	-	-	370400	504341

1603.00-090 魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊椎動物のエキス及びジュース

R KOREA	103 KG	20880	14532	320854	308432
CHINA	105 KG	257979	159517	2246826	1125677
TAIWAN	106 KG	-	-	12680	265870
THAILND	111 KG	113201	47670	1559835	679533
INDNSIA	118 KG	57080	21414	623967	211084
SPAIN	218 KG	60660	19279	562659	180458
CANADA	302 KG	-	-	47822	42673
USA	304 KG	44808	17206	234500	90971
CHILE	409 KG	-	-	2	355
AUSTRAL	601 KG	-	-	28080	28182
NEWZELD	606 KG	-	-	940	9509
TOTAL	990 KG	554608	279618	5638165	2942744
(E. U)	991 KG	60660	19279	562659	180458

3502.11-000 卵白(乾燥したもの)

CHINA	105 KG	-	-	11605	26583
INDIA	123 KG	107000	100548	629550	741665
SWEDEN	203 KG	15300	16154	67770	91364
NETHLD	207 KG	158075	172148	2355370	2985404
BELGIUM	208 KG	-	-	226798	327813
FRANCE	210 KG	43500	45555	540750	685432
GERMANY	213 KG	80000	86146	720000	885150
ITALY	220 KG	191870	208472	1569814	1956914
POLAND	223 KG	62500	65281	512500	621083
LITHUAN	237 KG	-	-	110880	130437
USA	304 KG	0	677	507554	1038001
BRAZIL	410 KG	-	-	22400	40329
ARGENT	413 KG	46000	43475	297400	379857
TOTAL	990 KG	704245	738456	7572391	9910032
(E. U)	991 KG	551245	593756	6103882	7683597

3502.19-000 卵白(乾燥したものを除く。)

LITHUAN	237 KG	-	-	160	323
BRAZIL	410 KG	-	-	69120	11656
TOTAL	990 KG	-	-	69280	11979
(E. U)	991 KG	-	-	160	323

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 1月7日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 109頭	高値	3,965	3,003	2,336	-	-
		安値	2,357	2,271	2,047	-	-
		平均	2,650	2,434	2,230	2,004	-
		頭数	79	24	5	1	-
	雌 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	2,076	-	-	-
		頭数	-	1	-	-	-
	去 A 118頭	高値	3,016	2,471	2,216	-	-
		安値	2,283	2,269	2,148	-	-
		平均	2,551	2,349	2,195	-	-
		頭数	88	24	6	-	-
去 B 1頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,114	-	-	-	
	頭数	-	1	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 13頭	平均	-	1,675	1,651	1,593	-
		頭数	-	8	4	1	-
	雌 C 4頭	平均	-	1,621	-	1,387	-
		頭数	-	2	-	2	-
	去 B 17頭	平均	-	1,703	1,575	1,488	-
		頭数	-	5	7	5	-
	去 C 1頭	平均	-	-	1,567	-	-
		頭数	-	-	1	-	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	398 350	984 1,046	- 19.5	(競り)	(相対)	
				-	-	72

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
和 去	A	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	895	-	833
	C	-	-	-	-	797
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	-	-	-	1,454	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	716	831	713	646	616
	安値	661	605	594	515	378
	平均	682	642	627	606	481
	頭数	( 6)	( 340)	( 466)	( 167)	( 67)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 1月7日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,759	2,527	-	-	-
(頭数)	( 23)	( 2)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,765	2,332	-	-	-
(頭数)	( 51)	( 16)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	2,058	1,876	1,670	-	-
C	-	1,782	1,663	-	-
交雑去 B	-	1,779	1,700	1,596	-
C	-	1,696	1,703	1,512	-
豚	-	559	560	535	315

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	1月7日	1月6日	(1月累計)
豚	71,800	72,400	144,200
成牛計	4,790	4,710	9,500
和牛雌	1,030	970	2,000
和牛去勢	1,260	1,390	2,650
乳牛雌	860	430	1,290
乳牛去勢	600	590	1,190
交雑雌	470	620	1,090
交雑去	570	710	1,280

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 1月7日

	1,547円	(前日 1,492円)
東京		
大阪	1,650円	(前日 -円)

[豚・全農建値] 1月7日

上	中	取引頭数	市況
647円	630円	1,101頭	急伸

と畜 売買	牛 104頭 牛 130頭	豚 114頭 豚 246頭	牛概況 豚概況	もちあい 反発
----------	------------------	------------------	------------	------------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 1月7日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	6,292	-	もちあい
仙台 [中]	637 (511)	600 (490)	530	44	急伸
宇都宮 [地]	- (-)	- (-)	1,900	-	上場なし
茨城 [地]	639 (-)	629 (-)	1,404	606	上伸
群馬 [地]	682 (656)	553 (577)	2,169	457	続伸
さいたま [中]	667 (673)	645 (662)	268	266	小反落
東京 [中]	642 (638)	627 (599)	984	1,046	堅調
横浜 [中]	632 (-)	618 (-)	661	476	反発
山梨 [地]	662 (617)	599 (575)	162	111	上伸
浜松 [地]	539 (512)	468 (468)	217	37	上伸
名古屋 [中]	581 (-)	554 (-)	945	221	下押し
京都 [中]	572 (546)	525 (544)	112	104	もちあい
大阪 [中]	559 (-)	560 (-)	114	220	反発
神戸 [中]	656 (-)	637 (-)	-	159	-
岡山 [地]	620 (-)	543 (-)	354	395	暴落
広島 [中]	530 (531)	478 (477)	309	88	もちあい
福岡 [中]	595 (620)	561 (595)	429	103	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 12月31日~1月6日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 313,786 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,118	1,302	1,408	1,307	18,104
うで	702	746	810	748	35,744
ロース	1,058	1,133	1,221	1,118	46,739
ばら	1,165	1,287	1,458	1,306	42,781
もも	724	756	821	768	31,694
ヒレ	-	-	-	-	636
セット	889	998	1,088	1,008	138,088

◇近畿圏 総重量 207,214 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,281	1,350	1,382	1,339	19,369
うで	725	745	788	745	39,839
ロース	1,108	1,166	1,312	1,202	30,988
ばら	1,242	1,335	1,490	1,345	42,443
もも	697	729	788	734	50,386
ヒレ	1,058	1,218	1,355	1,223	2,961
セット	962	962	1,172	983	21,228

[食鳥正肉日経相場] 1月6日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (6社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	711	747	839	-
ムネ	369	409	484	-

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	740	785	1,030	7
ムネ	391	444	590	4

[農水省統計情報部食鳥市況] 1月6日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,011	627	550	600	650
安値	724	390	290	360	350
平均	768	424	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995